

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成29年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立八ヶ岳少年自然の家	所管課	教育委員会 社会教育課
所在地	北杜市高根町清里3545	設置年月日 (改築年月日等)	昭和48年8月21日
指定管理者	公益財団法人山梨県青少年協会		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立少年自然の家設置及び管理条例		
設置目的	恵まれた自然の中で少年の豊かな情操を養うとともに、集団宿泊生活を通して自律、協同、友愛及び奉仕の尊さを体験的に学習させ心身ともにたくましい少年を育成することを目的とする。		
主な施設内容 (定員等)	○敷地面積 約44ha ○建物面積 約5039.92 m ² ○施設の内容 ≪管理棟≫ ・講堂(200人) ・ステージ ・第1研修室(44人) ・展示室 ・図書室 ・食堂 等 ≪研修棟≫ ・第2研修室(70人) 第3研修室(30人) 第2、第3研修室オープン利用(100人) 等 ≪体育館≫ ・1階(760m ²)、2階(24m ²) ≪宿泊棟≫ ・宿泊室(大) :4室(10人用、45m ²) ・宿泊室(小) :20室(8人用、23m ²) ・浴室 等 ≪観測棟≫ ・プラネタリウム ≪キャンプ場≫ ・キャンプセンター 全4サレ		
主な業務内容	(1)利用の承認に関する業務 (2)施設及び設備器具の維持保全に関する業務 (3)集団生活を体験させる集団宿泊訓練に関する業務 (4)野外観察、自然探求その他の自然に親しませる学習活動に関する業務 (5)体育、レクリエーション及び野外活動に関する業務		

2 類似施設・近隣施設

名称 施設内容 利用状況等	山梨県立愛宕山少年自然の家:定員150人 山梨県立ゆずりはら青少年自然の里:定員100人
---------------------	---

3 利用状況

単位：人、%

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (目標値)
利用者数	宿泊棟利用	32,011	31,363	30,611	
	キャンプ場宿泊利用	3,938	4,008	3,507	
	日帰り利用	5,066	4,330	4,712	
	利用者数合計	41,015	39,701	38,830	
	目標値	40,300	41,100	41,900	42,800
	目標値設定の考え方及びその理由	H27年度：前年度目標値の2%増 H28年度：前年度目標値の2%増 H29年度：前年度目標値の2%増 H30年度：前年度目標値の2%増			
対27年度比		96.8%	94.7%		
利用率	63.2%	60.3%	58.7%		

4 指定管理業務の収支状況

単位：円、%

		平成28年度	平成29年度 (計画値)	平成29年度 (実績値)	平成30年度 (計画値)
収入	施設利用料	4,198,880	4,860,000	4,080,260	4,957,000
	指定管理者委託料	96,308,000	100,149,000	100,149,000	99,199,000
	その他	2,150,111	1,335,000	2,555,653	1,335,000
	収入合計(A)	102,656,991	106,344,000	106,784,913	105,491,000
支出	人件費	55,612,628	58,940,000	53,237,080	58,805,000
	県への納付金				
	管理運営費	46,834,728	47,404,000	52,684,988	46,686,000
	うち外部委託費(B)	14,048,437	13,587,000	15,314,435	14,181,000
	支出合計(C)	102,447,356	106,344,000	105,922,068	105,491,000
収支差額(A-C)		209,635		862,845	
外部委託比率(B÷C)		13.7%	12.8%	14.5%	13.4%
利用者一人当たりの経費		2,425.8	2,390.2	2,579.2	2,317.7

5 利用者満足度

実施方法等	実施時期:平成29年4月～平成30年3月 実施方法:宿泊利用団体へのアンケート 回答数:289団体
-------	---

単位:%

調査項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
①ねらいや目標の達成	79.6%	19.7%	0.7%	
②施設運営	85.1%	13.5%	1.2%	0.2%
③職員対応	94.8%	4.6%	0.6%	
④活動(プログラム)	83.9%	15.9%	0.2%	
⑤食堂・食事	84.1%	14.5%	1.4%	
⑥プログラム相談	78.5%	20.0%	1.0%	0.5%
施設全般の満足度	91.0%	9.0%		

利用者の意見	<p>【活動プログラムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冒険ハイクの第2スタート地点が、わからなかった。 ・冒険ハイクをしている子どもたちに水分補給させたいが、どのようにしたら良いかわからない。 <p>【食堂・食事関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食堂の担当者に電話が繋がらず、連絡ができなくて困った。 ・食事の料金が高い。 <p>【プログラム相談について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に実施される、活動プログラムに関する相談日をもっと早くして欲しい。
利用者の意見への対応	<p>【活動プログラムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2スタートまでの誘導看板を1箇所増設した。また、当日の冒険ハイクを担当する職員が第2スタート地点まで誘導することを、プログラム相談の際に説明するよう徹底した。 ・プログラム相談時に給水ポイントの場所と、他校の給水ポイント実施の例を紹介するように改善した。 <p>【食堂・食事関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食堂業務受託業者へ伝えるとともに、利用者からの不在着信には迅速に返信するよう指導した。 ・施設内のメニュー検討会で検討していく。 <p>【プログラム相談について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム相談は、利用日の1か月半～1か月前に設定しているが、利用者の意見を伺いながら、できるだけ希望に沿えるよう検討していく。

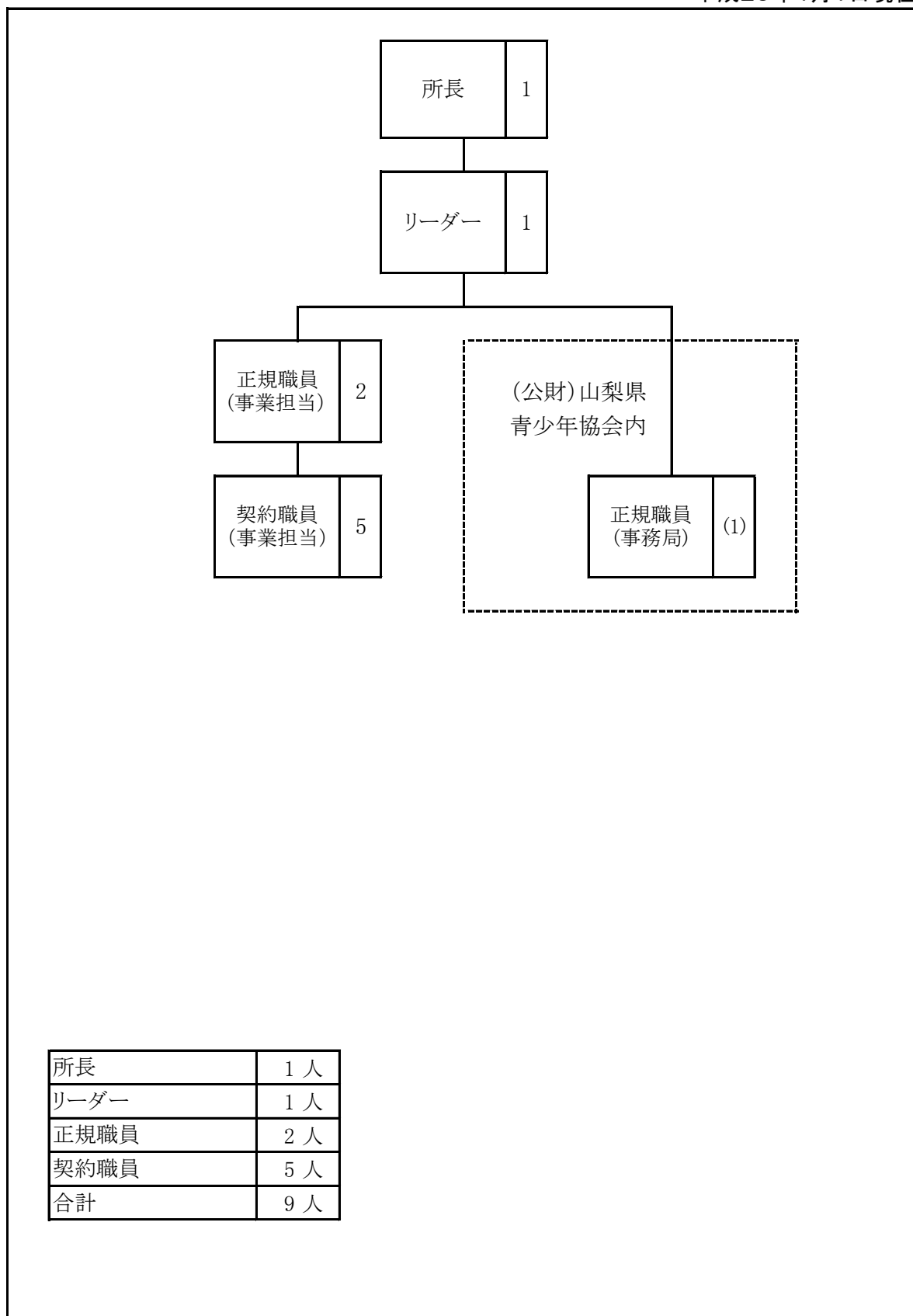
6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	<p>業務仕様書に基づいて施設の管理運営維持を行った。職員による毎日の巡回業務及び月1回の施設点検により、設備の不具合や欠陥等の早期発見に努めるとともに、修繕等を迅速に対応した。</p> <p>特に、屋外の活動エリアについては、利用者が安心して安全に活動できるよう、枯枝や倒木、落石等の撤去作業を早急に行い、未然に事故を防ぐ対策を行った。</p>	<p>法定点検業務等施設の維持管理業務は、業務仕様書、事業計画書に基づき適切に実施されている。</p> <p>施設・設備に不具合が生じた際、迅速に所管課へ報告するとともに、速やかに修繕などの対処をしており、利用者の安全確保に努めている。野外活動をする利用者が多いため、敷地内の巡回点検等については、引き続き迅速な利用者安全対策に努めること。</p>
運営業務	<p>利用する立場に立ち、利便性や快適性に留意したサービスが提供できるよう十分に考慮して執行した。プログラム相談会では、それぞれの団体が利用の目標を達成できるよう職員が指導・助言を行った。</p> <p>主催事業に関しては、広報活動を積極的に行い、ほとんどの事業で定員を上回る参加者を得ることが出来た。</p> <p>また、職員の能力向上を図るため、積極的に研修へ参加した。</p>	<p>利用承認や体験活動等の運営業務は、業務仕様書、事業計画書に基づき適切に実施されている。</p> <p>利用者からの意見に対しても、迅速に対応し、また、ホームページをリニューアルして、提供内容を充実させるなど、サービスの向上に努めている。今後も、利用者ニーズを把握し、サービス向上、施設の充実に努めること。</p>
利用状況	<p>利用者数は、目標値及び昨年度実績値とも下回ってしまった。要因としては、児童・生徒数の減少や夏休み直前の旅行業法の取扱いに関連したキャンセル等が影響したものと思われる。</p> <p>部活動での利用は試合を伴う合宿で、直前に予約する学校が多かったが、提出書類等のやりとりをスピーディーにし、柔軟な対応をすることで、宿泊室の稼働率、閑散期の利用率の向上を図った。</p>	<p>利用者数が減少傾向にあり、目標値、前年度実績値とも下回ってしまった。</p> <p>閑散期の利用者拡大を図るため、市町村教育委員会や各種団体に対して施設や事業について案内するなどの取り組みにより、閑散期の利用者は、昨年度に比べて若干増加した。引き続き、効果的な広報活動に努めて、利用者の増加に繋げられるよう期待する。</p>
収支状況	<p>施設の安全管理のために必要不可欠な修繕が多く、その修繕費が増加しているものの、経費の節減に努め、費用対効果を十分に考慮し、全体的にはほぼ計画通りの執行ができた。</p>	<p>修繕費など利用者の安全確保や利便性の向上を図るために必要な経費の増加は、やむを得ないものとする。今後も、サービスの質は低下させずに、効率的な執行等の工夫により、可能な限り経費節減に努めること。</p>
自主事業	<p>施設の利用率の向上を図ること、施設に親しみを持ってもらうことを目指した。</p> <p>特に、従来、秋・冬の閑散期に行ってきた日帰り事業を、本年度は冬限定の家族で宿泊できる事業として行い、冬の八ヶ岳の自然を満喫していただいた。</p>	<p>施設の周知や利用者の増加に繋がるよう、特に閑散期の清里の自然環境を活かした事業の実施に取り組んでいる。</p> <p>今後も、利用者ニーズを把握し、工夫を凝らした魅力ある事業の企画に努めること。</p>
利用者満足度	<p>利用毎にアンケートを行っており、対応できる指摘事項に、即時対応した結果、すべての項目で、高い満足度を得ることができた。</p> <p>また、指摘事項や対応状況については、朝礼や毎月の職員会議で情報の共有を図った。</p> <p>引き続き、利用者の意見や要望に速やかに対応した施設運営を行っていく。</p>	<p>利用者満足度は、いずれの項目でも高い評価を得ている。</p> <p>利用者からの意見や要望には、今後も迅速かつ丁寧に対応するとともに、施設改善の好機と捉え、運営や新たな事業の企画に活かし、よりきめ細やかなサービスの提供に努めること。</p>

<p>運営目標の達成状況</p>	<p>施設及び設備器具の維持管理にあたり、基本協定書、事業計画等に基づき、専門業者による法定点検及び職員による日々の定期点検を実施し、結果については定期報告書を県に提出し確認を受けた。</p> <p>平成29年度の利用者数の実績は38,830人で、目標値の41,900人を下回る結果となった(達成率92.7%)。また、昨年度の実績に対して871人減少した。要因としては、児童・生徒数の減少や旅行業法の取扱いに関連したキャンセル等が影響したともと思われる。</p> <p>利用時期、利用目的については、春から夏にかけて、小・中学校、高等学校の宿泊学習や少年団体の利用が全体の7割程度を占めるが、夏休み期間や秋、冬の連休に部活動での合宿利用も多かった。</p>
<p>施設所管課による総合的な評価及び指導事項</p>	<p>施設の維持管理、運營業務は、業務仕様書や業務計画書に基づき、適正に実施されており、利用者満足度の評価も高い。</p> <p>一方、利用者数は、平成27年度以降減少傾向が続き、平成29年度も前年度実績及び目標値とも下回った。特に、閑散期の利用促進を図ることが継続的な課題となっている。積極的かつ効果的な施設のPRを行うとともに、閑散期である秋・冬季ならではの事業を実施するなど、利用者拡大のために、一層工夫していく必要がある。</p> <p>施設の老朽化のため、修繕を要する箇所が多くなっているが、引き続き、安全確保や快適な利用環境の提供を意識し、施設・設備の状態を把握するとともに、修繕等が必要な場合には、迅速な対応に努めること。</p> <p>弾道ミサイル落下に対処するため、安全対策マニュアルの見直しや、訓練の強化を図るなど一層安心・安全の確保に努めるよう指示した。</p>
<p>施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況</p>	<p>閑散期の利用率向上対策として、秋・冬季用のチラシを作成。市町村教育委員会や体育協会、育成会等に対して、訪問や郵送などで配布し、利用促進を図った。</p> <p>ホームページでは、利用者が必要とする情報を分かりやすく掲載し、定期的な更新を行うとともに、SNSを活用し、事業の実施状況(写真)をアップするなど、事業の様子を参加者以外の方にも広く広報した。また、ホームページを親しみやすいデザインに一新するとともに、利用申請書等の電子データを、ホームページからダウンロードできるサービスを開始した。</p> <p>弾道ミサイル落下に対処するため、安全対策マニュアルの見直しを行い、利用者に対して施設のオリエンテーション時に、Jアラート発報時の対応についての説明を行った。</p>

7 管理体制(組織図)

平成29年4月1日現在



所長	1 人
リーダー	1 人
正規職員	2 人
契約職員	5 人
合計	9 人